モーリタニア月例報告
(2018年7月及び8月)

2018年9月
在モーリタニア日本国大使館

主な出来事

【内政】

- 7月19日 アブデル・アジズ大統領の三期目立候補の可能性に関するモーリタニア政府報道官コメント
- 7月20日 独立選挙委員会運営委員長の交代
- 8月1日 独立選挙委員会による次期選挙の有権者数発表
- 8月7日 反奴隷闘争復活イニシアチブ（IRA）代表の逮捕
- 8月10日 与党UPRの選挙キャンペーンへの20閣僚動員決定
- 8月13日 独立選挙委員会による次期選挙の概要発表
アブデル・アジズ大統領の三期目立候補の可能性に関する大統領コメント
- 8月14日 アブデル・アジズ大統領によるUPR以外の与党立候補者に対する立候補撤回要請
反奴隷闘争復活イニシアチブ（IRA）代表の2019年大統領選出馬決定
- 8月17日 選挙キャンペーンの開始
- 8月30日 アブデル・アジズ大統領の三期目立候補の可能性に関する大統領コメント

【外政】

- 7月1日～2日 第31回AU総会の開催
- 7月9日 アブデル・アジズ大統領のトルコ訪問
- 7月10日 イスマイル外相の中国・アラブ協力フォーラム出席
- 7月23日 ハマス使節団のアブデル・アジズ大統領表敬
- 7月30日 スペイン内務大臣のモーリタニア訪問
- 8月6日 サウジ・カナダ関係に係るモーリタニア外務・協力省コミュニケ
- 8月19日 モーリタニア・アルジェリア間国境検問所の設置
- 8月23日 ケイタ・マリ大統領の当地訪問

【経済】

- 7月23日 モーリタニア・セネガル国境沖合の海底ガス田（GTA）開発：
石油・エネルギー・鉱業省とシェル社との開発協定調印
- 7月26日 GTA開発に係る閣議決定
- 8月15日 G5サヘル諸国商工会議所代表会議の開催

【治安情勢】

- 8月10日 マリ国境付近におけるモーリタニア軍パトロール部隊と不法侵入者との交戦
- 8月13日 ISILのサヘル及び大サハラ地域での活動状況に係る国連安保理レポート

【軍事】

- 7月26日 モーリタニア軍参謀副総長の交代

【その他】

- 7月15日 モーリタニア沿岸警備隊によるセネガル人不法移民救助

【内政】

●アブデル・アジズ大統領の三期目立候補の可能性に関するモーリタニア政府報道官コメント（7月19日付当地独立系ニュースウェブサイト「サハラ・メディア」（アラビア語））

1 19日に行われた閣議後の定例記者会見において、ウルド・シェイフ文化・伝統産業大臣兼政府報道官が、記者団に対して要旨以下のとおり述べた。

（1）現体制は今後も続く。アブデル・アジズ大統領の退任について語っている人々は妄想に取りつかれている。

（2）アブデル・アジズ大統領は、自身の責任を果たし、他の多くの国が陥った困難からモーリタニアを救った。また、同大統領は国民からも支持されている。

（3）今後、アブデル・アジズ大統領が、自身の責任を放棄することはない、また国民の期待を裏切ることもない。

2 他方、ウルド・シェイフ政府報道官による右コメントは、自身の三期目立候補の可能性を否定し現行憲法の規定（当館注：三選禁止規定）を尊重する旨強調しているアブデル・アジズ大統領の過去のコメントと相反する。

●独立選挙委員会運営委員長の交代（7月23日付「シャアブ」）

7月20日、独立選挙委員会（CENI）が、病気のため辞任した同運営委員長に代わり、ムハンマド・ヴァル・ウルド・バツラール（Mohamed Vall Ould BALLAL）元外相の同新委員長への就任を発表した。

●独立選挙委員会による次期選挙の有権者数発表（8月1日付「AMI」）

8月1日、独立選挙委員会（CENI）は、本年6月1日から7月31日まで実施した選挙人名簿作成の結果、18歳以上の男女約1,428,000人が本年9月の選挙の有権者数として登録されたと発表した（当館注：当地人口は約400万人）。

●反奴隷闘争復活イニシアチブ（IRA）代表の逮捕

1 ビラムIRA代表の逮捕（8月7日付当地独立系ニュースウェブサイト「アル＝アフバール」（アラビア語））

8月7日、モーリタニア警察は、次期国民議会選挙立候補者であるビラムIRA代表を逮捕し、同氏の自宅からヌアクショット南部州リヤード警察署へ連行した。IRAスポークスマンによると、警察はビラム氏逮捕理由を一切明かしていない。

2 野党からの反応（8月7日付「サハラ・メディア」）

8月7日、野党連合FNDUは、要旨以下のとおり次期選挙前に相次ぐ政治家の逮捕に対し憂慮を示す旨のコミュニケを発出した。

（1）現在の選挙プロセスは安堵できる状態からほど遠く、ビラムIRA代表及び青年団体代表を含む相次ぐ政治家の逮捕を強く非難する。現状に鑑み、透明性及び公正性が担保され、モーリタニア国民が彼らの意思を自由に表明することができる選挙の実施は期待できない。

（2）政治家の次期選挙への立候補阻害を目的とした今回の逮捕劇は、政治家のみならず、有権者をも恐怖に陥れた。当局は、独立選挙委員会（CENI）がビラム氏の国民議会（下院）選挙への立候補を確定する日に敢えて同氏の逮捕に踏み切った。

（3）また、国民議会選挙への立候補を表明した青年団体代表は、1週間以上に渡り当局に身柄を拘束されており、家族、弁護士及び団体メンバーは逮捕の理由を知らされていない。

（4）かかる憂慮すべき現状は、行政府が今次選挙プロセスに大きく関与していることの証左であり、政治的目標のために行政が司法を利用し、立候補者及び有権者を恐怖に陥れている。

(5) FNDUは、一連の逮捕劇を強く非難するとともに、現在当局に拘束されている全ての立候補者の即時釈放を求める。また、FNDUは、初期から歪んでいた選挙プロセスを非難するとともに、モーリタニア国民が彼らの意思を自由に表明することができる選挙を実現するために、この歪んだプロセスを修正することをあらためて強く要求する。

3 ビラム氏コメント（8月7日付当地独立系ニュースウェブサイト「ル・ガワーレブ」(アラビア語)）

(1) 8月10日、国民議会選挙立候補者であり現在ヌアクショット南部州リヤード警察署に勾留されているビラムIRA代表は、アブデル・アジズ大統領は、自分（ビラム代表）の9月1日の国民議会選挙への立候補を阻止しようとしているが、自分は決してそれに屈せず、また、現政権のあらゆる政策を引き続き拒否する旨声明を発表した。

(2) なお、8月7日にモーリタニア警察は、モーリタニア人ジャーナリストのアブダッラー氏からの訴えに基づき、アブダッラー氏の名誉毀損等の嫌疑によりビラム氏を逮捕したが、ビラム代表は、同声明の中でアブダッラー氏に対し絶対に謝罪を行わない旨述べた。

4 CENIの対応（8月10日付「アル＝アフバール」）

(1) 8月10日、独立選挙委員会（CENI）は、サワブ党総裁に対し、ビラムIRA代表の国民議会選挙への立候補が確定した旨正式に通知した。

(2) 現在もなおビラム氏はヌアクショット南部州リヤード警察署に勾留されている。

5 反奴隷制活動家の逮捕（8月14日付「ル・モンド」(仏語)）

(1) 8月7日、反政府系人権団体「反奴隷闘争復活イニシアチブ（IRA）」のビラム代表が、モーリタニア人ジャーナリスト、ダッダ＝アブダッラー氏に対する誹謗中傷及び憎悪扇動の嫌疑によって逮捕された。

(2) ビラム代表を告訴したアブダッラー氏は、「あるまじき同盟」と評価されるIRAとサワブ党の同盟に関するドキュメンタリーを制作しており、その中で同盟側及び9月の国政選挙における対抗馬が、ビラム代表の政治経歴や人物像に関するインタビューに答えている。

6 ビラム代表、再投獄（8月14日付「Jeune Afrique」(仏語)）

(1) アブダッラー氏は、「Jeune Afrique」のインタビューに対し、6月27日にユーチューブにIRA及びサワブ党同盟に関する批判ドキュメンタリー

を投稿後、ビラム代表や同団体の活動家から恫喝行為を受けたことから、7月4日にビラム代表および同団体の活動家を告訴したことを明かした。

(2) ビラム代表の弁護団は、原則48時間に制限されている勾留期間を超えた同代表の勾留の合法性に疑問を呈した。同弁護団の一人によると、逮捕から6日後の8月3日に、同代表は初めて検察官からの面会を受け、暴力を行使した脅迫及び第三者の尊厳毀損 (atteinte a l' integrite d' autrui) の嫌疑をかけられ、拘置された。

(3) IRAの活動家であるアブダライ・ウルド・フセイン氏もビラム代表との共犯の罪で収監された。

7 欧米人弁護士コメント (8月7日付「アル＝アフバール」(アラビア語))

(1) 8月7日、仏人弁護士及びベルギー人弁護士が、同日モーリタニア当局によって逮捕されたビラムIRA代表の釈放を求める声明を発表した。

(2) 数年に渡りビラム氏の活動を支持する両弁護士は、国際社会、特に仏社会及びベルギー社会に向けて、モーリタニア当局がビラム代表を無条件に釈放し、結社の自由、次期選挙への立候補を含む完全な活動の自由を保障するようモーリタニア政府に対して働きかけるよう呼びかけた。

●与党UPRの選挙キャンペーンへの20閣僚動員決定

(8月10日付当地独立系ニュースウェブサイト「アル＝アフバール」)

1 8月10日、与党第一党UPR「共和国のための連合」(l' Union pour la Democratie et le Progres) は、本年9月の国民議会選挙、市議会選挙及び地方議会選挙のための選挙キャンペーンに関し、30以上の閣僚のうち、5閣僚を国内調整委員に、20閣僚を全国各州でUPRが開催する選挙キャンペーンの責任者に任命した旨発表した。

2 国内調整委員会にはかつての党改革委員会委員6名が以下のとおり任命された。

- (1) マハムUPR党首
- (2) ディヤロ国防大臣
- (3) ジャイ経済・財務大臣
- (4) ミント・マウルード住宅・都市・国土開発大臣
- (5) アブデル・ヴェッタ石油・エネルギー・鉱業大臣
- (6) ウルド・モハメド・フーナ雇用・職業訓練・通信技術大臣

3 全国各地でUPRが開催する選挙キャンペーンの責任者は以下のとおり任命された。

- (1) ホード・エッシャルギ州：シェイク・シディヤ大統領府付大臣

- (2) ホード・エルガルビ州 : ウルド・レビブ国家教育大臣
(3) アッサバ州 : ウルド・アブデル・マレク人権・人道活動庁
長官
(4) ゴルゴル州 : シュルーカ漁業・海洋経済大臣
(5) ブラクナ州 : ウルド・アブドゥ・ダーイム水利大臣
(6) トラルザ州 : ウルド・ウダーア設備・運輸大臣
(7) アドラール州 : カマラ環境・持続可能な開発担当大臣
(8) ダフレト・ヌアディブ州 : ウルド・サーレム高等教育・科学研究大臣
(9) タガント州 : ムバラク・ファール商業・工業・観光大臣
(10) ギディマガ州 : ウルド・カンボ経済・財務大臣付予算担当大臣

- (11) ティルス・ゼムール州 : ブーバカル保健大臣
(12) インシリ州 : ミント・ビラル青少年・スポーツ大臣
(13) ヌアクショット北部州 : ウルド・マンマ農業大臣
(14) ヌアクショット南部州 : ディア法務大臣
(15) ヌアクショット西部州 : ウルド・シェイフ文化・伝統産業・議会大臣
(13日付「サハラ・メディア」)

4 8月10日、与党第一党UPRが、8月17日に解禁される選挙キャンペーンに向けて20閣僚を全国各州でUPRが開催する選挙キャンペーンの責任者に任命したことを受け、同12日、野党連合FNDUが、選挙の中立性を確保しないモーリタニア政府を非難する旨のコミュニケを要旨以下のとおり発出した。

(1) 今次選挙プロセスを民主主義の規範から逸脱したものにしようと画策する現政権の意思が日に日に色濃くなっている。現政権は、現政権寄りの立候補者支援のために国家、権力及び国家の所有物を全て投入している。

(2) 大統領は、国家を政党の所有物にしようとしており、実際に多くの閣僚が選挙キャンペーンに動員される。また、9月の三選挙のキャンペーンのため、約500名の政府高官及び中央省庁幹部が動員されるため、同キャンペーン期間中は、与党の選挙キャンペーンが公共サービスや行政サービスよりも優先され、国家は機能不全に陥る。

(3) 次期選挙に参戦する全ての政党に対し、この明らかな不正に断固として立ち向かうよう呼びかける。

5 野党連合FNDUは、2013年の国民議会選挙を最後に国政選挙への参加を辞退していたが、本年9月の三選挙への参加を決定した。他方、FNDUは、独立選挙委員会(CENI)の正当性に疑問を呈し、また今次選挙プロセ

スを「一方的なもの」と非難している。

●独立選挙委員会による次期選挙の概要発表（8月14日付「シャアブ」）

8月13日、独立選挙委員会（CENI）が本年9月に実施される選挙の概要につき発表した。

なお、選挙方式はすべて拘束名簿式比例代表制。国民議会定数は157名であり、女性のみ全国区名簿及び性別関係なしの全国区名簿から各20名、郡ごとの名簿（人口に応じて議席割当）から117名が選出される。

1 投票形式

投票当日、有権者には投票所において以下5枚の投票用紙が配布される。

（1）国民議会選挙：3枚（女性立候補者のみの全国区名簿用、性別関係なしの全国区名簿用及び郡ごとの名簿用各1枚）

（2）地方議会選挙：1枚

（3）市議会選挙：1枚

2 参加政党数：98

3 各党から提出された名簿数は以下のとおり。

（1）国民議会選挙

ア 郡ごとの名簿：109

イ 女性立候補者のみ全国区名簿：87

ウ 性別関係なしの全国区名簿：96

（2）地方議会選挙：67

（3）市議会選挙：143

4 有権者数：1,400,663名（当館注：当地人口は約400万人。有権者は18歳以上の男女）

5 投票所数：4,035か所（有権者500名ごとに投票所を設置）

6 その他

（1）有権者カードは国外にて印刷予定。

（2）安全管理の観点から、投票箱は他国製品を輸入予定。

●アブデル・アジズ大統領の三期目立候補の可能性に関する大統領コメント（8月14日付「シャアブ」）

8月13日、ホード・エッシャルギ州を訪問中のアブデル・アジズ大統領が、ベイカトルアハワーシュ（当館注：当地南東部ネマ市近郊のマリとの国境付近）において開催された地元有識者及び政治家との集会において、自身の三期目立候補の可能性につき言及した。大統領の発言概要は以下のとおり。

1 現政権を支持し、現政権の施政方針を支持する者は、9月の三選挙におい

て与党UPR「共和国のための連合」(l'Union pour la Democratie et le Progres)に投票しなければならない。また、UPR以外の党からの立候補者は、現政権の味方でもなく、自分(アブデル・アジズ大統領)の味方でもない。

2 三期目及び四期目立候補を要求するのであれば、現政権の方針に従い、すべての投票において即座にUPRに票を投じなければならない。UPRへの投票がすべての人々にとっての希望となることを願う。

●アブデル・アジズ大統領によるUPR以外の与党立候補者に対する立候補撤回要請(8月14日付「サハラ・メディア」)

1 8月14日、ホード・エッシェルギ州を訪問中のアブデル・アジズ大統領が、同州都ネマ市(当館注:当地南東部)において開催された地元有識者及び政治家との集会において、9月の三選挙に関し、与党第一党であるUPR「共和国のための連合」(l'Union pour la Democratie et le Progres)以外の与党からの国民議会選挙立候補者に対し、立候補を取りやめUPRを支持するよう呼びかけた。

2 アブデル・アジズ大統領は、UPRは一部の連立与党及び一部の政治家に対し、国民議会選挙における出馬を要請したものの、全ての与党に対し出馬を要請していない旨述べるとともに、UPRの要請を受けていないにもかかわらず独断でUPR以外の与党からの立候補を表明している候補者に対し、立候補の撤回を求めUPRを支持するよう要請した。

3 UPRから出馬要請のなかった与党及び多くの政治家は、かかるUPRの決定に不満を示し、与党連合内の他党からの立候補を表明している。

●反奴隷闘争復活イニシアチブ(IRA)代表の2019年大統領選出馬決定(14日付「サハラ・メディア」)

1 8月14日、アブドゥッサラーム・ウルド・ヘルマ野党サワーブ党総裁は、ビラムIRA代表を2019年に予定されている大統領選挙における同党の立候補者として擁立することを決定した旨発表した。同発表は、同13日のビラムIRA代表に対する実刑判決(懲役刑)を受けて同党が開催した記者会見において行われた。

2 8月13日、ヌアクショット南部州裁判所は、モーリタニア人ジャーナリストのダッダ＝アブダラー氏からの告訴に基づき、同氏に対する誹謗中傷、恫喝及び憎悪扇動の嫌疑で逮捕・勾留されたビラムIRA代表に対し、実刑判決(懲役刑)を言い渡し、同日、ビラム代表は収監された。

●選挙キャンペーンの開始

1 モーリタニア全国各地で選挙キャンペーン開始（8月20日付「シャアブ」1面）

（1）9月1日及び同15日に一斉実施予定の国民議会選挙，市議会選挙及び地方議会選挙のための選挙キャンペーンが8月17日に全国各地で開始された。今次選挙の最大の特徴は，全ての派閥を代表する98の政党が選挙人名簿に登録されている1,400,663人の有権者からの投票を獲得すべく群雄割拠している点にある。

（2）今次選挙に参加する政党は，ヌアクショットや他の都市にある各党本部において選挙キャンペーンを開始し，演説集会を開催した。選挙キャンペーンはヌアクショット及びその他の都市において前向きな雰囲気の中で開幕した。

2 与党第一党UPR，選挙キャンペーン開始（8月20日付「シャアブ」2面）

8月17日，与党第一党UPRは，旧国際空港跡地にて選挙キャンペーンを開始し，アブデル・アジズ大統領が要旨以下のとおり同キャンペーン開幕宣言を行った。

（1）今次キャンペーンは偉業となる。今次キャンペーンは，モーリタニアに過去50年に渡り蔓延っていた公金横領をはじめとする汚職と戦う現在のプロセスを継続するためのキャンペーンである。

（2）短期間でモーリタニア全土において交通・水インフラが整備され，また，2003年～2008年に悪化した治安は現在完全にコントロールされている。これらの実績は，今次選挙においてUPRを強く後押ししてくれるだろう。過去9年間の我々の取組は，モーリタニアの平和を脅かす者たちを後退させた。そして，モーリタニア国民の強い意思が彼らの前に立ち上がった。

（3）平和と安定，インフラ，質の高い教育，保健，電力・エネルギー及び水の各分野における取組を掲げるUPRの名の下に我々は一致団結している。また，モーリタニア各地で国民の手によって整備された医療サービス，交通インフラ及び強靱な経済等は国際機関や著名な経済学者からも認知されている。

（4）治安分野においても，モーリタニア軍は今や地域で最も強い軍隊であり，アフリカや欧州のみならず世界的な模範として高く評価されている。極めて高い能力とプロフェッショナリズムを兼ね備えたモーリタニア軍は，モーリタニアの独立以降初めてコートジボワール及び中央アフリカにおけるPKO活動に参加している。

（5）これまで我々が達成した偉業を次世代に引き継ぐためには，部族主義や階級主義から脱却し，今次選挙においてUPRに投票し，現体制を継続するこ

とが必要不可欠である。

3 選挙キャンペーン，熱狂と共に幕開け（8月17日付「アル＝アフバル」 （アラビア語））

（1）8月17日，モーリタニア全国各地で選挙キャンペーンが史上類を見ない熱狂と共に開幕し，同キャンペーン開始直後から，アブデル・アジズ大統領と野党党首たちとの間で舌戦が繰り広げられた。

（2）アブデル・アジズ大統領は，旧国際空港跡地で開催された与党第一党UPRの選挙キャンペーンに出席し，ステージ上でUPRの選挙キャンペーン開始を宣言した。これは，野党党首たちに対する宣戦布告を意味するアブデル・アジズ大統領からの明確なメッセージであった。

（3）アブデル・アジズ大統領は同スピーチにおいて，今次選挙キャンペーンは，10年前に始まった現在のプロセスを継続するためのキャンペーンである旨述べるとともに，現在のプロセスは特定の人物と結びついたものではなく，今次選挙キャンペーンの目的は我々が過去10年間で獲得してきたものを維持することである旨強調した。

（4）興奮を隠すことができなかつたアブデル・アジズ大統領は，UPRを支持しないライバルたちを強く威嚇するとともに，モーリタニア国民に対し今次選挙に打ち勝つよう呼びかけた。

（5）ムハンマド・ウルド・マウルードFNDU総裁及びアハマド・ウルド・ダッダRFD総裁をはじめとする野党党首たちはアブデル・アジズ大統領のスピーチに早速反論し，同大統領が自身の体制維持のために国家，権力及び国家の所有物を全て私物化しているとして，同大統領及び与党UPRを強く非難する旨スピーチを行った。

●アブデル・アジズ大統領の三期目立候補の可能性に関する大統領コメント（7月30日付「サハラ・メディア」）

アブデル・アジズ大統領は，7月30日に行われた記者会見において，大統領三期目に向けて自身の出馬が認められるように憲法を変えようとしているとの野党からの批判を一蹴した。同大統領コメント概要は以下のとおり。

1 これまで私の三期目立候補の可能性については何度も話してきたとおり，私の三期目立候補が認められるよう憲法を変えるつもりはない。

2 他方，モーリタニアの大統領として，一人のモーリタニア国民として，憲法改正を阻むものはないと考えている。

【外政】

●第31回AU総会の開催

7月1日及び2日、首都ヌアクショットにて第31回AU総会が開催された。元首の参加は、モーリタニアの他、エスワティニ（スワジランド）、ガーナ、ガボン、ガンビア、ギニア、コモロ、コンゴ（共）、シエラレオネ、ジブチ、ジンバブエ、スーダン、赤道ギニア、セネガル、チャド、トーゴ、ナイジェリア、ナミビア、ニジェール、ブルキナファソ、マダガスカル、マリ、南アフリカ、ルワンダの24か国（「西サハラ」を除く）。当地でのAU総会の開催は初めて。

1 第31回AU総会開会式（7月2日付当地政府系紙「シャアブ」（アラビア語））

（1）1日、新国際会議場で第31回AU総会が開幕した。同総会では、アブデル・アジズ大統領及びAU議長であるカガメ・ルワンダ大統領をはじめアフリカ諸国の首脳及び閣僚、その他多くのパートナーが一堂に会し、汚職撲滅を主要テーマとして、AUの組織改革、アフリカ大陸間自由貿易協定（AfCFTA）、アフリカが抱える諸問題の解決策、アフリカ、カリブ海及び太平洋諸国の2026年以降の共通政策、アジェンダ2063の承認及びカガメAU議長が推進する組織改革を含む諸問題につき議論する。

（2）また、各国首脳はクローズドセッションにおいて、アフリカの平和と安全保障に関するAU平和安全保障理事会（AUPSC）報告書及び「紛争のないアフリカ」（Silencing the Guns by 2020）推進のためのAUロードマップに関する報告書につき協議する。

（3）同開会式に出席したアブデル・アジズ大統領をはじめとする以下の参加者がスピーチを行った。

ア アブデル・アジズ大統領（スピーチ全文別添）

イ カガメ・ルワンダ大統領（スピーチ全文別添）

ウ ムーサ・ファキAUC委員長（スピーチ全文別添）

エ マーリキー・パレスチナ外務庁長官（ラマツラ発大臣宛電報第590号御参照）

オ アブルゲイト・アラブ連盟事務総長（スピーチ全文別添）

カ アミナ・モハメッド国連副事務総長（スピーチ全文別添）

2 第31回AU総会閉会式（7月2日付当地政府系ニュースウェブサイト「AMI」（アラビア語））

（1）2日、モーリタニアにおいて2日間にわたり開催された第31回AU総会が閉幕した。閉会式では、AUアンセム斉唱、AU議長を務めるカガメ・ル

ワンダ大統領によるスピーチ及びA U首脳を代表するスポークスマンを務める
ガインゴブ・ナミビア大統領によるスピーチが行われた。今次A U総会では多
数のテーマ別会合及びバイ会談が開催され、アフリカが抱える諸問題に関する
議論が大きく進展した。

(2) カガメ・ルワンダ大統領は要旨以下のとおりスピーチを行った。

ア 今次A U総会を成功裏に開催したアブデル・アジズ大統領をはじめモーリ
タニアの努力を高く評価する。また、A U事務局員の努力及び卓越した運営能
力を称賛したい。

イ 今次A U総会での真剣な取組が、汚職との戦いをはじめとする諸問題の解
決に向けて大きな進展があったと確信している。

ウ また、アフリカ大陸間自由貿易協定(A f C F T A)に関し、新たに5か
国が同協定に署名したことで、署名国が49か国となった点も今次A U総会の
主要成果の一つである。

(3) ガインゴブ・ナミビア大統領は要旨以下のとおりスピーチを行った。

ア 今次A U総会の出席者を代表し、アブデル・アジズ大統領、モーリタニア
政府及びモーリタニア国民の皆様のホスピタリティ精神と卓越した運営に感謝
し、敬意を表する。

イ 今次A U総会では、A Uの将来に影響を与える組織改革問題及び財政改革
を含む諸問題に関する議論が行われ、2019年のA U予算の削減が可能とな
った。

3 A U総会のマージンで開催された会合等

(1) 6月29日(金)

モーリタニア・A U間議定書署名式

(2) 6月30日(土)

ア 南スーダン紛争解決のためのA U平和安全保障理事会ハイレベル会合

イ 女性のエンパワーメントに関するA U・E Uハイレベル会合

ウ G5サヘル臨時首脳会合

エ 第6回「緑の壁」汎アフリカ機構閣僚級会合

オ モーリタニア・E U間議定書署名式

カ アブデル・アジズ大統領夫妻主催晩餐会

4 アブデル・アジズ大統領がA U総会マージンで行ったバイ会談

(1) 6月29日(金)

ア シエラレオネ大統領

イ ルワンダ大統領

ウ コンゴ（共）大統領

（2）6月30日（土）

ア ニジェール大統領

イ ガボン大統領

ウ 赤道ギニア大統領

エ 「西サハラ」大統領

オ ナイジェリア大統領

カ ガンビア大統領

キ チャド大統領

ク エスワティニ国王

ケ ナミビア大統領

コ スーダン大統領

サ ブルキナファソ大統領

シ ギニア大統領

ス マリ大統領

セ ジブチ大統領

（3）7月1日（日）

ア エジプト首相

イ シエラレオネ大統領（2回目）

ウ ギニア大統領（2回目）

エ アミナ・モハメッド国連副事務総長

（4）7月2日（月）

ア セネガル大統領

5 ハッターミン大統領がA U総会マージンで行ったバイ会談

（1）6月29日（金）

南ア大統領

（2）6月30日（土）

ア セネガル大統領

イ タンザニア副大統領

ウ ジンバブエ大統領

エ マダガスカル大統領

オ ソマリア首相

カ アルジェリア首相

キ リビア首脳評議会議長

ク ガーナ大統領

- ケ コモロ諸島大統領
- コ コートジボワール副大統領
- (3) 7月1日(日)
- ア エジプト首相
- イ トーゴ大統領
- ウ エイズ・結核・マラリア対策基金事務局長
- (4) 7月2日(月)
- セイシェル副大統領

6 イスマイル外相がA U総会マージンで行ったバイ会談

- (1) 6月29日(土)
- ア エチオピア外相
- イ エジプト外相
- ウ ケニア外相
- エ セネガル外相
- (2) 7月1日(日)
- ア パレスチナ外務庁長官
- イ アミナ・モハメッド国連副事務総長
- (3) 7月2日(月)
- ア モロッコ外相
- イ チュニジア外相
- ウ スーダン外相
- エ アミナ・モハメッド国連副事務総長(2回目)
- オ アルジェリア外相

●アブデル・アジズ大統領のトルコ訪問(7月9日付「AMI」)

- 1 7月9日、トルコ訪問中のアブデル・アジズ大統領は、21か国の元首、28か国の首脳、6名の国際機関長らと共に、同日にアンカラにて開催されたエルドアン・トルコ大統領就任式に出席した。
- 2 エルドアン大統領は同就任式において、トルコの初代大統領として宣誓を行った。

●イスマイル外相の中国・アラブ協力フォーラム出席（7月10日付「AMI」）

1 7月10日、中国訪問中のイスマイル外相は、北京で開催された第8回中国・アラブ協力フォーラムに出席した。

2 イスマイル外相は、習近平国家主席の開会宣言によって開幕した同フォーラムにおいてスピーチを行った。同外相はスピーチの中で、中国とアラブ世界、特に中国とモーリタニアとの深い協力関係を強調するとともに、14年前に設立された同フォーラムがあらゆる分野における両者の関係強化に大いに貢献した旨述べた。

3 また、同外相は、1日及び2日にヌアクショットにて開催された第31回AU総会の成功についても言及し、モーリタニアが取り組むサヘル地域におけるテロとの戦いに対する中国からの支援を呼びかけた。

4 イスマイル外相は、第8回中国・アラブ協力フォーラムのマージンで以下の外相とバイ会談を行い、二国間の共通の関心事項につき協議した。

(1) 10日、ジュベイル・サウジ外相（7月10日付「AMI」）

(2) 10日、ヤマーニ・イエメン外相（7月10日付「AMI」）

(3) 11日、王中国外相（7月11日付「AMI」）

●ハマス使節団のアブデル・アジズ大統領表敬

7月23日、オサーマ・ハムダーン・ハマス国際関係担当及びサーミー・アブー・ズフリ同報道官がモーリタニア大統領府においてアブデル・アジズ大統領を表敬し、パレスチナが抱える諸問題につき説明した。

●スペイン内務大臣のモーリタニア訪問（7月31日付「シャアブ」）

1 ハッターミン首相への表敬

7月30日、当地訪問中のフェルナンド・グランデ・マルラスカ・ゴメス（Mr. Fernando Grande-Marlaska Gomez）スペイン内務大臣が首相府にてハッターミン首相を表敬し、同会談にはアブデッラ内務・地方分権大臣及びアグアド当地スペイン大使らが同席し、両国共通の課題及び二国間関係強化の方途につき協議された。同会談において、ゴメス・スペイン内務大臣は要旨以下のとおり発言した。

(1) モーリタニア・スペイン両国の関係は極めて良好である。テロ・組織犯罪・不法移住・麻薬密輸対策分野での両国の協力は10年の歴史があり多くの成果を上げた。

(2) スペインは、不法移住との戦いにおいて現在モーリタニアが晒されているプレッシャーをよく理解しており、モーリタニアの取組を高く評価している。

スペインはモーリタニアの声をEUにも届け、EUの一員としてもモーリタニアの不法移住との戦いを支援する。

2 アブデッラ内務・地方分権大臣との協議

7月30日、アブデッラ内務・地方分権大臣は、同省において当地訪問中のゴメス・スペイン内務大臣とテロ・不法移住・麻薬密輸対策をはじめ組織的越境犯罪対策における二国間協力の方途につき協議した。同協議において、両大臣は要旨以下のとおり発言した。

(1) アブデッラ内務・地方分権大臣

モーリタニア・スペイン両国の関係は近年著しく発展している。特に2015年5月26日にマドリードにおいて、テロ・組織犯罪・不法移住対策、(治安分野での)情報交換、技術協力、行政機関の現代化、研修等を含む治安協力協定が締結されて以降、両国の関係は更に強化した。

(2) ゴメス・スペイン内務大臣

ア 12年間に渡る両国の治安分野での協力は多くの結果を残し、今後も更なる成果を得ると確信している。スペインはモーリタニアとの治安協力協定に特別な関心を有しており、常にモーリタニアと共にある。スペインは、モーリタニアが治安分野での両国共通の課題克服のためにいかに大きな責任を負っているかよく理解しており、モーリタニアの取組を高く評価している。

イ テロ組織をはじめ様々な犯罪組織の力は増長しており、その手口も進化している。両国の強い意思がより多くの成果を生み、更なる協力関係の構築に資する。

3 モーリタニア・スペイン合同警察本部(ヌアディブ市)訪問

(1) 7月30日、アブデッラ内務・地方分権大臣はゴメス・スペイン内務大臣と共にヌアディブ市のモーリタニア・スペイン合同警察チーム本部を訪問した。同合同チームは、不法移住ほう助組織の解体及び不法移住防止を目的として2008年2月17日に結成され、これまで多くの不法移民を検挙してきた。

(2) また、アブデッラ大臣は、ゴメス大臣と共に、現在ヌアディブ独立港に停泊中のグアルディア・シビル(スペイン憲兵隊)の巡視船内を視察し、不法移住との戦いにおいて、毎月ヌアディブ独立港に寄港する同巡視船が果たす役割につき説明を受けた。

●サウジ・カナダ関係に係るモーリタニア外務・協力省コミュニケ（8月7日付「シャアブ」）

8月6日、モーリタニア外務・協力省は、サウジアラビア・カナダ関係に係る同6日付モーリタニア外務・協力省コミュニケを要旨以下のとおり発表した。

1 モーリタニア・イスラム共和国は、（人権の保護という虚偽の名分によって）他国の内政上の問題に干渉することを決して容認せず、このような行為は外交儀礼及び国際関係と相容れないと認識している。

2 このような内政干渉は世界平和に資することなく、むしろ世界の平和と安定を脅かすものである。したがって、我々は、主権を有する他国に対し収監者の即時釈放を求めたカナダ外務省及び在サウジアラビア・カナダ大使館による明白な内政干渉に驚愕した。

3 また、モーリタニアは、サウジアラビア王国及び同国国民との完全な連帯を表明するとともに、カナダに対し、前例のないその声明を撤回するよう要求する。

●モーリタニア・アルジェリア間国境検問所の設置（8月19日付「サハラ・メディア」）

1 8月19日、モーリタニア・アルジェリア間の経済・商業活動の活性化を目的として、両国間の国境検問所が設置された。今般設置された国境検問所は、両国を結ぶ初めての国境検問所であり、2017年11月の両国内相による同検問所の設置に係る合意を受けて設置された。

2 アルジェリアのメディアによると、アブデッラ・モーリタニア内務・地方分権大臣と共に同検問所の開所式に出席したヌールッディーン・ベドウィ・アルジェリア内務大臣は要旨以下のとおり述べた。

（1）国境検問所は、両国間の経済・商業活動の活性化をはじめ多くの成果をアルジェリア・モーリタニア両国民にもたらすことを期待している。

（2）財界人及び投資家に対し、両国国境地域の経済発展のために経済取引をより増やしてもらうよう呼びかけたい。また、右目標達成のため、両国の合同ワーキングチームを結成する。

3 両国の国境は全長460Kmであり、複数国との陸上の国境を有する両国にとって、モーリタニア・アルジェリア国境は、最も短い国境線である。

4 アルジェリア通信によると、アルジェリア側が同検問所建設の事業総額1.5億アルジェリア・ディナール（約850万ユーロ）を負担し、同検問所には、出入国管理手続専用事務所46か所を含む建物49棟、駐車場4か所及び休憩所が整備された。

●ケイタ・マリ大統領の当地訪問（８月２３日付「AMI」）

１ ２３日午後、ケイタ・マリ大統領はヌアクショット国際空港に到着し、アブデル・アジズ大統領及びハッターミン首相をはじめモーリタニア政府高官から歓迎を受けた。ケイタ大統領は、１２日に実施されたマリ大統領選挙において６７．１７％の得票により再選を果たしている。

２ また、アブデル・アジズ大統領は、ヌアクショット国際空港貴賓室にてケイタ大統領とテタテで会談を行い、両国共通の関心事項及びモーリタニア・マリ二国間関係強化の方途につき協議した。

３ ２３日夕刻、ケイタ大統領は当地訪問を終了し、ヌアクショット国際空港にてアブデル・アジズ大統領及びハッターミン首相をはじめモーリタニア政府高官や多くの在モーリタニア・マリ人に見送られながら帰路に着いた。ケイタ大統領は、ヌアクショット国際空港にて記者団に対し、要旨以下のとおり述べた。

（１）大統領選挙という最も厳しい時期に寄り添ってくれたアブデル・アジズ大統領に感謝。

（２）透明性と威厳を保ち、マリ大統領選挙において勝利を収めることができた。

【経済】

●モーリタニア・セネガル国境沖合の海底ガス田開発：石油・エネルギー・鉱業省とシェル社との開発協定調印（7月24日付「シャアブ」）

1 7月23日、アブデル・ヴェッタ石油・エネルギー・鉱業大臣が、アンディ・ブラウン・シェル社CEOとの間で、GTAのC-19及びC-20鉱区の生産及び掘削に係る2つの協定に署名した。同協定によると、シェル社のGTA両鉱区における作業利権は90%、モーリタニア炭化水素・鉱業公社（SMHPM）（当館注：当地石油・エネルギー・鉱業省の管轄下にある公社）の作業利権は10%とされる。

2 また、モーリタニア政府及びシェル社は、モーリタニア国内のエネルギー需要を充足するため、GTAの共同探査プロジェクト実施に係る覚書にも調印した。

3 シェル社は、今後ヌアクショットに事務所を開設し、GTA開発に係る既存のデータを見直すための探査活動を開始する。同社の他に、既に英BP社、米KOSMOS社、米エクソンモービル社及び仏TOTAL社がモーリタニア側GTA開発事業に参入している。

●モーリタニア・セネガル国境沖合の海底ガス田（GTA）開発に係る閣議決定（7月27日付「シャアブ」）

1 7月26日、本年2月9日にセネガルとの間で締結されたGTAの共同開発に係る政府間協力協定が承認されるとともに、7月23日にシェル社との間で締結されたC-10及びC-19鉱区の探査及び生産に係る協定が承認された。

2 また、閣議後の定例記者会見において、アブデル・ヴェッタ石油・エネルギー・鉱業大臣は本件に関し、要旨以下のとおりコメントした。

（1）GTAは2015年に発見され、15兆～20兆立方フィートのガス資源を擁する巨大なガス田であり、GTA開発費用はモーリタニアとセネガルが50%ずつ負担する。本事業は外国人任せではなく、本事業の実施を通じて自国の人材を育成・活用し、自国の石油産業のニーズに合致した生産を行うことを目指している。

（2）今般協力協定を締結したシェル社は、エネルギーの探査、開発及び生産において国際的な企業である。同社に加え、米エクソンモービル社、英BP社及び仏TOTAL社といった国際的な大企業の当地での活動は、世界中の投資家に対して信頼感を与え、モーリタニアへの更なる投資促進に資するものである。

● G5サヘル諸国商工会議所代表会議の開催（8月16日付「シャアブ」）

1 8月15日、ヌアクショットのモーリタニア商工会議所本部にて「サヘル地域経済：機会、課題、未来」とのテーマでG5サヘル諸国商工会議所代表会議が開幕した。2日に渡り開催される同会議では、機会の拡大及び目標達成のための障壁削減を通じた、G5サヘル諸国間の協力の可能性と将来像や5か国のパートナーシップ及び経済統合推進の方途につき協議される。

2 ムバラク・ファール商業・工業・観光大臣の代理で同会議に出席したアブデル・ヴェッタ石油・エネルギー・鉱業大臣は、要旨以下のとおりスピーチを行った。

（1）治安、政治及び開発分野において数々の難題に直面しているG5サヘル諸国間の経済協力関係強化を目指す本会議は極めて重要である。

（2）国境を越えるテロ、組織犯罪及び不法移住等の諸課題の解決と地域の平和と安定の実現のため、治安分野に限らず様々なレベルでの協力の推進が肝要である。

（3）G5サヘル諸国の経済状況改善と人々の生活水準向上のため、結束し、開発に必要な負担を分担し、決死の覚悟で戦うことが求められている。アブデル・アジズ大統領のイニシアティブにより設立されたG5サヘルは、G5サヘル諸国の開発と成長を阻む課題克服に大いに資する。

3 アハマド・バーブ・ウルド・エレヤ・モーリタニア商工会議所代表は、要旨以下のとおりスピーチを行った。

（1）モーリタニア商工会議所は、G5サヘル諸国の人々に経済的な幸福をもたらすために、本会議においてG5サヘル諸国間の商業・経済関係の強化に取り組む。

（2）テロとの戦い及び治安のコントロールの分野においてモーリタニアが達成した偉業を称えたい。また、かかる偉業により醸成された安堵の空気は、持続可能な開発の推進に大いに貢献している。

4 また、同会議において、G5サヘル諸国の商工会議所代表が、G5サヘル商工会議所連盟設立に係る合意に署名した。G5サヘル諸国は、同連盟が、地域の経済社会開発に適した環境を整備するという各国商工会議所代表の熱意に呼応することを期待している。

【治安情勢】

●マリ国境付近におけるモーリタニア軍パトロール部隊と不法侵入者との交戦
1 8月10日付モーリタニア軍参謀本部コミュニケ（13日当地政府系紙「シヤアブ」（アラビア語）及び同「オリゾン」（仏語）1面）

（1）2018年8月10日朝，第2地区（当館注：アルジェリア及びマリとの国境付近）パトロール部隊は，モーリタニア極北東部のマリ国境付近において，不法侵入者と交戦した。

（2）交戦の結果，敵方2名が死亡，複数名が負傷するとともに，モーリタニア軍兵士2名が負傷し，負傷した兵士2名には応急処置が施された。陸軍及び空軍は同地域における不法侵入者一掃作戦に尽力している。

2 8月10日付「サハラ・メディア」

（1）10日朝，モーリタニア軍パトロール部隊は，身元不明の複数の不法侵入者に襲撃され，兵士2名が負傷するとともに，軍の装備が損傷した。「サハラ・メディア」特派員によると，本事案は，モーリタニア極北東部のガルブ・エンドール地区で発生し，交戦したパトロール部隊は，アルジェリア及びマリとの国境地帯を管轄していた。

（2）襲撃者複数名が，パトロール部隊を待ち伏せしており，同部隊の車輛に対してRPG弾を発射した。同部隊もRPGで応戦した結果，襲撃者の車輛1台が大破し，襲撃者は撤退したが，同部隊は，新たな待ち伏せ作戦の可能性を危惧し，深追いはしなかった。

（3）本事案は，軍事的立入禁止区域で発生した。密輸組織が活動している同区域においては，モーリタニア軍による密輸組織一掃作戦が展開されている。

●ISILのサヘル及び大サハラ地域での活動状況に係る国連安保理レポート（8月14日付「サハラ・メディア」）

1 国連安保理制裁監視チーム（Sanction Monitoring Team）が発表したレポートによると，サヘル及び大サハラ地域においてISILは依然として活動しており，同地域においてはアルカイダ（AQ）系「イスラムとムスリムの支援団（JNIM）」の活動に次いで活発に活動している。

2 3,000～4,000人のISIL戦闘員がリビアに存在し，これらの戦闘員がアフガニスタンに送り込まれている。また，アフリカの角地域においては，AQ系青年組織が勢力を拡大しており，ISILは，ソマリア中部及び同南部のISIL戦闘員をプントランド（ソマリア北東部）に送り込んでいる。

3 イラク及びシリアにおいては，ISILが多くの戦闘において敗北し，外国人戦闘員のISILへの合流は減少したにもかかわらず，依然として両国に20,000～30,000人のISIL戦闘員が残存しており，そのうち数

千人は外国人戦闘員である。

【軍事】

●モーリタニア軍参謀副総長の交代（7月26日付「サハラ・メディア」）

7月26日、G5サヘル合同部隊司令官に任命されたハナナ（Gen. Hanana Ould SIDI）大将に代わり、ムハンマド・シェイク・ウルド・ムハンマド・ラミーン・アルマイン大将（元モーリタニア陸軍司令官）がモーリタニア軍参謀副総長に就任した。

【その他】

（欧州不法移民問題）

●モーリタニア沿岸警備隊によるセネガル人不法移民救助（16日付「シャアブ」）

1 7月15日、モーリタニア沿岸警備隊が、モーリタニア領海内でスペインに向かっていたセネガル人不法移民125人を乗せた木製ボートを発見し、全員を救助した。今回救助された不法移民は、同13日にセネガルのM' Boro村付近から出港しスペインを目指していたが、モーリタニア沿岸警備隊に発見される2日前には食料及び水は尽きていた。

2 救助された移民は食料及び水を含む必需品を支給され、ヌアクショット独立港（当館注：中国が無償で建設した通称「友誼港」。1986年完工。）に搬送された。同港では、アブデッラ内務・地方分権大臣及びブーバカル保健大臣が不法移民を向かい入れ、応急処置を施した。

3 国土監視庁長官によると、2015年以来、モーリタニア領土及び領海内を通過した不法移民は一人もおらず、全ての不法な試みはモーリタニア当局の取組により阻止された。今次取締りは、モーリタニア北部ヌアディブ沖合での53人の不法移民の取締りに次いで2度目の取締りであり、昨年はスペインに向かう途中の132人の不法移民に対する取締りを行った。

（了）